

包装紙使った「高齢者アート」普及に取り組む

ラッピングペーパーやビーズ、ワイヤを自在に使い、立体的な花や葉を作ってディスプレイケースや写真立てに飾る。「高齢者には本格的なアート作品作りが必要」と1月に高齢者アート研究会（埼玉県春日部市）を立ち上げ、9月には作品展示会を開いた。

准看護師の資格を持ち、介護施設に15年勤務した。施設で高齢者が簡単な塗り絵や工作などの単純作業を繰り返す「子どもじみて嫌だ」という声を聞き、「作る高齢者が満足し、贈られた人も喜ぶ手芸の作品作りはで

長瀬 教子氏

フォーカス



作る喜び伝えたい

きないか」と考えた。

そして10年ほど前に考案したのが「プランティングフラワー」。介護施設の片隅に積まれた段ボールや包装紙などの廃材を材料に、バラやヒマワリなどの花びらや葉の型紙を準備した。高齢者自身ハサミで切って段ボールに穴を開け、ワイヤ付きの花を植え付けていくのを指導してきた。

レターボックスなどの実用品を贈り家族や友達に喜ばれると、高齢者は「花の種類に合わせた色の紙を使いたい」と、作品作りの意欲が高まっていくという。現在は春日部市の複数の施設で導入している。

作品展示会は、高齢者向けのアート指導者を増やしたいとの思いがある。介護の現場では食事や入浴、排せつの介助で忙しいが、女性だったり、高齢になったりすると入浴介助などは体力的に厳しくなる面もある。「アート作品の指導スキルを身につければ、介護現場での働き方が広がる」と話す。

|| ながせ・きよこ ||、64歳